

発行所
楽只社会福祉協議会
発行人 後藤 重義
編集者 広報委員会

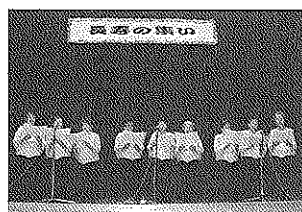
れ、披露されました。午前の催しでは、楽只保育所園児からのビデオレターや楽只小学校児童による歌や踊りの発表で、子どもたちからの心温まるメッセージがお年寄りに届けられました。

会）が地域の各種団体のボランティアの協力を受け、北いきいき市民活動センター（多目的ホール）で盛大に開催されました。当日は、楽只・鷹峯学区を合わせ、百十六名のお年寄りのみなさんが参加され、百名近くのスタッフの協力

昼食会ではお弁当が配られお年寄り同志やスタッフのみなさんと語りあいながら交流を深めました。この間、佛教大学総合研究所の堀家先生より、学区高齢者の実態把握調査の協力依頼が提案がされました。

「長寿の集い」は、NPO法人くらしネット21の後藤重義理事長（楽只社会福祉協議会会長）のごあいさつで始まり、続いて来賓紹介、代表で北区役所から半澤文朗副区長より祝辞のごあいさつを受けました。また、各界・各層からたくさんの方の祝電が届けら

午後の催しでは、沖縄の伝統的な踊りであるエイサーを琉球国祭り太鼓のリズムに合わせて一緒に踊ったりしながら、楽しむことができました。続いて、女性会によるコーラスや児童館の児童による踊りを、

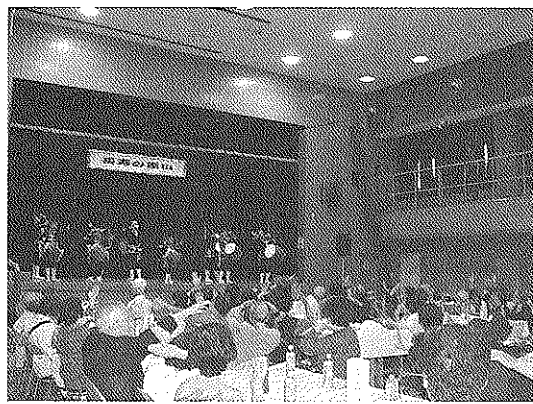


披露していただきました。また、防災教室として北消防署より、この三月に起こった東北地方の大震災の報告と健康教室として千北鍼灸接骨院より、身近にできる健康体操をしていただきました。

最後に、毎年お年寄りから楽しみにしていただいている京都市消防音楽隊による懐メロの演奏で、参加者全員が歌ったり踊ったり、大変盛り上がりました。

閉めに、楽只社会福祉協議会岩崎昭廣副会長より、閉会のごあいさつをいただき、無事終えることができました。

参加されましたお年寄りのみなさんをはじめ、ご協力をいただいたスタッフ・関係者のみなさん本当にありがとうございました。この場をおかりしまして厚くお礼申し上げます。今後とも、みなさんのご協力をよろしく願います。



配食サービス

楽只社会福祉協議会では、校区にお住まいの七十歳以上の独居高齢者に、配食サービスを行っています。三つの地域に分け、それぞれ二回ずつで年間六回行います。

老人福祉員さんとボランティアの方々に協力してもらって、楽只小学校の五・六年生が一緒に自宅を訪問し、お弁当を届けています。

子ども達は、一軒一軒の
家で元氣よくあいさつをし
たり、「いつまでも元氣でい
てください」などと声をかけ
たりしてくれます。お
弁当だけではなく、
笑顔と真心もお届け
しているのです。



出発前の決意の言葉が、回を重ねるたびに力強くなつていくことも大変頼もしいです。

お年寄りの皆様も、子ども

達が訪問してくれるのを心待ちにしておられます。早くから家の前で待つておられたり、握手をしながら楽しくお話をされたりしておられます。

この時に一緒に記念の写真をとり、来年のカレンダーにして後日お届けする予定です。
子ども達の心からのプレゼントです。

ふれあいのひととき

十月九日（日）の学区民運動会の敬老席や長寿のつどいの受付では、老人福祉員さんが民生委員さんや他のボランティアさんと一緒に、まず当日の独居高齢者の出欠を確認し、一日のお世話を分担することから始まります。

そして、運動会では、お茶やおにぎりやお菓子を、また長寿のつどいでも、お食事やおみやげ渡し等の接待をさせていただきます。

ご近所に住みながらも、なかなか顔を拝見する機会がありませんが、こうした行事

を通して親しくお声を掛け、共に楽しむことができるのは大変貴重な時間だと思います。

九十歳があたりまえになつてきた昨今、出席されているご高齢の方々を見て、どのよ

うに年齢を重ねていけば良い

のだろうかと思いをはせる時に、貴重なお手本とさせていただきます。

地域の皆様にも、どしどし
地域行事に出かけられ、子ど
も達やお年寄りの方々から、

たくさんパワ
ーをもらってた
だきたいと思
います。



～地生連総会より～

十二月一日（木）に嘉楽中
学で行われた地生連総会にお
いて、北警察署生活安全課少
年係の方からのお話を聴く機
会をいただきました。

全市傾向での少年非行の件数としては減少傾向にあるものの、万引き等は、まだまだ後を絶たないそうです。また、インターネット関連のトラブルや犯罪が増えるばかりでなく、非常に複雑化してきているというお話でした。例えばパソコンに接続制限をかけるなど、家族ぐるみでの見守りや声かけが、以前にもまして必要になってきているようです。

また、すべての非行や犯罪の根底に『規範意識の低下』が、一因としてあるようだというお話もうかがいました。非行や犯罪の道に足を踏み入れないように、気持ちを改めさせるためにも、大切なことは『心を通わせる』ことであり、「なんとしてでも『心を変えろ』きつかけ」を与えてやりたい」と、願いをこめた力強い言葉で締めくくられました。

改めて、『地域の子どもは地域で育てる』ことの大切さを感じました。皆で見守り続けていきたいものです。

特養と地域ボランティアについて

特別養護老人ホーム『紫野』ボランティア担当 長谷かおり

特養『紫野』では、月平均延べ90～110名の多くのボランティアさんが活動されています。

特養に入居されている方の暮らしは、社会とのつながりが薄くなり、単調になってしまいがちです。日々の暮らしの中で、社会や地域との接点を切らすことなく、楽しみや趣味、他者との交流が継続できればと思っています。ボランティアさんの中には、ご自分の特技や趣味を活かし、見ていただきたい、披露する場が欲しい、余暇を使い役に立ちたいと思っておられる方もたくさんおられます。特養に入居されている方々とボランティアさんのニーズをつないでいきたいと思っています。入居されている方々は、今までの暮らしの中で何かしらの楽しみや趣味を持って暮らしてこられています。何かしたいと思っても、ご自分だけではできないことが多くあり、誰かに支援をしていただくことで実現することができるようになります。入居されている方の生活のうるおいとなっています。

年2回、日頃の活動への感謝と他のボランティアさん同士の交流を目的に、ボランティア交流会を開催しています。

地域に開かれた施設を目指し、地域との交流をおこなっていききたいと思います。

民生児童委員と

地域の福祉活動

メディアから流れる様々な情報は日々めまぐるしく変わり、私たちの生活に直結してまいります。高齢者への虐待や、悪質な訪問販売による被害や、幼い児童への虐待など目にあまるものがあります。

支援活動をしてあります。

○ 援護を必要とする住民の見守りと相談支援活動。

○ 高齢者、障害者、子育て家庭の孤立・孤独をなくする活動。

○ 必要なサービスが受けられるよう関係機関との「つながり」等の活動。
どうぞお気軽にご相談ください。

ボランティアに

支えられている

点字図書館

京都ライトハウス

事務局長 神谷俊昭

京都ライトハウスは、「盲学生のための点字図書館を作ろう」という運動が発端となり、五十年前に設立されました。

設立当時から「視覚障害者に文字を届けたい」という多くのボランティアの皆様に支援をいただいております。現在も五百人以上の登録ボランティアがあられます。

教科書や専門書、小説などを点訳したり録音したりするには、多くの時間を要するため、沢山の人の助けが必要です。そこでボランティアの皆さんに助けていただいています。大切な情報をお届けする訳ですから、間違えて点訳すると困ったことになります。その為、講習会を開いたり、認定試験を受けていただいたりしています。

点字図書館である「情報ステーション」の自慢は、飛び込みでも読んだり書いたり、サービスを提供できる「読み書きサービス」のコーナーがあることです。ボランティアさんが交代で常駐していただけるからこそ、出来るサービスです。

来年の秋は時代祭の行列に参加しよう！

来年の秋、十月二十二日(月)時代祭行列参加の当番が楽只学区に回ってきます。

二十二年毎に努めなければならぬ大役のため時代祭の準備として毎年計画的に積み立て、予算の段取りをして参りました。

京都の三大祭り(五月の葵祭)・(七月の祇園祭)・(十月の時代祭)、この中で私たちが参加出来るのは、この時代祭だけです。

皆様の生涯の思い出づくりのためご参加をお願い致します。

袴(かみしも)を着て行列に参加する方々、それを支えるスタッフの方々、楽只学区挙げて総勢百名程のご協力を戴かねばなりません。

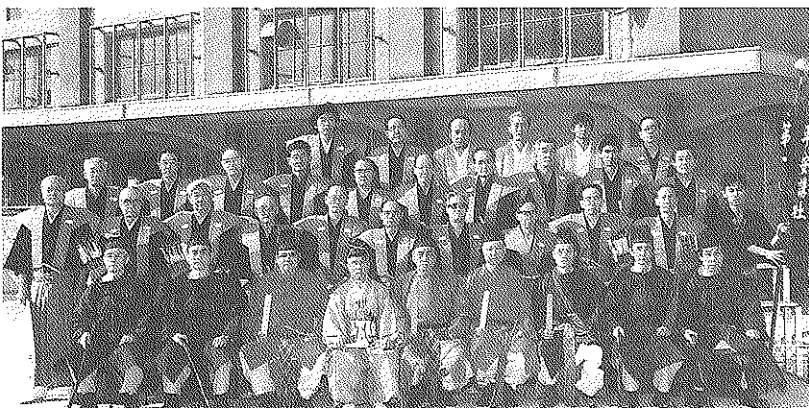
来年度の町内会長様が決まる五月頃より、実行委員会を立ち上げ準備に取り掛かります。

最近の当番学区

平成20年	紫野学区
21年	柏野学区
22年	紫竹学区
23年	鷹峯学区
24年	楽只学区



袴、袴の姿で、御所 → 烏丸通 → 御池通 → 平安神宮 へと4.5kmをパレードします



(前回平成二年の参加者)



人権シリーズ

第四十回きたけん・ 楽只校人権月間の取組

「きたけん」は多くの方々のご理解とご支援により一歩一歩その輪を広げ、四十年もの間、取組を展開してまいりました。この取組は多くの人々の熱意と努力によって支えられ、部落解放・反差別の連帯、さらには人権文化の構築をめざしたまちづくり集会へと成長してきました。

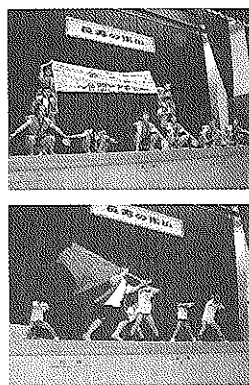
今年の第四十回きたけんでは、三重県名張市在住の渡辺千賀子さんをお迎えし、「お話しコンサート」を行っていたがきました。コンサートでは、六曲の歌を披露していただく中で、被差別部落出身ということで、ご自身の被差別体験、生き方を話していただきました。こうした経験から行動を起こしていくことの大切さを伝えていただきました。渡辺さんの生き方から、参加者も改めて人権問題について考える契機となったと思います。

楽只校では、十一月十四日(月)～十二月二十二日(木)までを人権月間と定めて、確かな人権感覚を育てるための取組を進めています。人権標語を作ったり、人権書写を書いたりしています。また各クラスが、これまでの総合的な

『地域のお年寄りと共に』

京都市立楽只小学校
校長 成實 孝之

京都市北いきいき市民活動センター(十月二十二日)にて「長寿のつどい」が盛大に行われました。この「長寿のつどい」に楽只校の六年生や文化部の子どもたちが、出演させていただきました。長寿をお祝いし、お年寄りにもつと元気になってもらおうと「時を超えて」「組体操」「よさこいソーラン」「ヘビードーテーション」等の歌や踊りを披露しました。お年寄りから、あたたかい拍手や「よかったよ」「元気が出るわ」等の声をかけていただき、あたたかい心をいただきました。



子どもたちの感想の一部を紹介します。「おじいさん、おばあさんがとても楽しんでくれました。なかには泣いて喜んでくれた人もいて、とても嬉しかったです。つくづく、参加してよかったと思います。配食ボランティア等で会う時には、おじいさん、おばあさんが、元気をだしてもらえるように声をかけていきたいです。」

これから楽只学区の未来を担う子どもたちが、地域に根ざした活動を続けてくれることを期待しています。

『今、学校では』
京都市立嘉楽中学校
校長 室 保次

この楽只社協だよりが発行される頃には中学校では三年生の進路希望が出されていることでしょう。それも京都市の公立中学校の高校への進学率が九十七%の時代ですから、ほとんどが進学を目指します。また就職についてはハローワークからの求人がほぼゼロというのが現状ですから、進学よりも厳しい就職の状況が続いています。

中学の卒業は九年間の義務教育の修了です。そして中学三年間では子どもたちは大人へのステップを踏むため著しく成長を遂げます。この時に心身にアンバランスが生じ、人間関係や自己嫌悪などで悩み苦しみます。一方でこれは成長でもあるのです。その成長の助けとなるのが学級や部活動の仲間であり、家族や地域、先生など回りの大人です。また学習で身につけた九年間の広い意味での学力も成長を力強く促進します。中学生活は三年間と短く、心と体をうまく整理するには十分な時間とは言えません。ですからこれまでも大切に

『楽只児童館より』

館長 古川 豪

子どもたちが小学校から児童館に帰ってくる少し前に、佛教大学の学生さんがやってきました。彼女や彼らは学校の先生、保育士などをめざして、その勉強のためにボランティアやアルバイトとして、児童館で子どもたちと向き合っています。

子どもたちは「今日はどの学生さんが来るのだろうか?」と楽しみにしているし、職員さん達も大助かりなんです。

いま、職員さん達と話しているのは、そういう学生さんが児童館からちゃんと勉強になるものを得てくれているのだろうか、ほかや職員さん達は、学生さんのこのころさしに対して、手ごたえのある何かを提示できているだろうか?ということです。そういうところから、児童館を見つめなおし、よく自身おしる、ずいぶん勉強させてもらっているというのが正直なところです。がんばらねば。さて、そんな学生さん、保護者、地域のみなさんが協力してくださる恒例『ふれあい児童館

祭・お餅つき」を年明け一月二十八日(土)に計画しています。ぜひ、おこしください。

『地域の方々と共に』

楽只PTA会長 日下部 潔

平素は楽只学区の皆様には学区の子どもたちが地域の皆様のお声かけや励ましにより元気に活動出来ていますことを感謝申し上げます。

先日、門川京都市長様から「安心安全な居場所の充実活動として感謝状」を楽只放課後まなび教室に、また高桑教育長様から「読書活動優秀実践団体表彰」を楽只小学校図書館ボランティアにいただくことになりました。

図書館ボランティアは保護者を中心に図書館リニューアルを実施し、蔵書を日本十進分類法に沿って分類作業、破損圖書の修復、書庫の移動などを行ってきました。図書室の机・椅子も新調してもらって、放課後まなび教室でも図書室を開放していただき、子どもたちは今まで以上に図書に触れる機会が増えたことを喜んでいきます。

『地域の子どもは地域で育てる』を基本に始まった放課後まなび教室、活用しやすくなった図書室で地域の方々、保護者、学生と様々な年代の方々が子どもたちに接していただいています。

楽只体育振興会

運動会は天候に恵まれ、多数のご参加で開催できました。今年は東日本大震災で、人々の絆の大切さが言われています。学区民の皆様が一堂に会し、協力して事に当たる事が出来ました。また、親睦も深まりました。優勝は中十二坊町・準優勝は市営十五棟・第三位は市営十三棟でした。ありがとうございました。また、先日の北区役員親睦ボウリングで楽只チームは団体準優勝しました。

二月五日に学区民ボウリング大会を予定しております。年明けに開催、ご案内します。

「ウォーキングのすすめ」

国民の六十%が『運動不足だ』と感じている今日、手軽に出来る運動があります。何時でもどこでも、好きなときに出来るウォーキングがあります。一週間に二千キロカロリー(三百キロカロリー一日一万歩)の運動量が健康維持に良いとされています。一万歩歩くで一時間四十分位、距離は七、八kmに成ります。一日の普通の生活で三千歩程度、通勤者が意識して歩くと五千歩程度、目標の一万歩には「意識的ウォーキング」三千歩〜五千歩程度になります。皆さん歩きましよう!

楽只女性会

去る十二月十一日に楽只小学校の全校児童を対象に「和菓子手作り体験」が催され、女性会は講師を務めさせて頂きました。

自己紹介や作り方の説明の後、しっかり手洗い・消毒をして、京和菓子へ雪上松を作りしました。普段、あまり馴染みのないへうを使い上手に細工して、食べるのがもったいないと思うくらい職人さながらの出来映えとなりました。

私達も真剣な子ども達のキラキラ輝く表情に触れ、心が温まりました。

子ども達からも『楽しかった』

守ります 火の用心で 京のまち

12月20日(火)～

12月31日(土)に

年末特別警戒を実施します

楽只消防分団



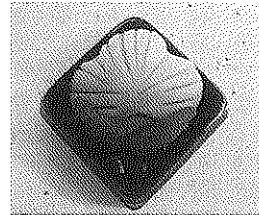
寒さの増すこの時期は、暖房器具の取扱いには注意してください。

楽只学区から、火災が起きないように!

- ①放火防止のため家の周りに燃えやすい物を、置かないようにしましょう。
- ②寝タバコは絶対にしない、喫煙は指定の場所を作り灰皿には必ず水を入れるようにしましょう。
- ③暖房器具の周りには燃えやすい物を置かない、特に暖房器具を使って洗濯物などを乾かす事は止めましょう。
- ④台所等火を使う場所では、そばを離れる時は必ず火を消しましょう。
- ⑤就寝前や、外出前は、必ず火の元の点検をしましょう。

と大好評でした。

今後このような子ども達とのふれあいを大切にして、くもりのある地域作りに携わって行きたいと思っております。



京和菓子<雪上松>

皆様にご協力頂いております廃品回収も引き続きよろしくお願い致します。

★使用済み油回収

★古紙回収 第2土曜日

★空き缶回収 第3土曜日

最終週の水曜日

秋の受賞

自治記念日表彰

十月十五日、京都市自治記念式典で市政の推進に貢献された次の方々に門川市長から表彰状が贈られました。

○未来の京都まちづくり推進表彰

- ・日下部幾代氏(南花ノ坊中)
- ・平井 斉己氏(上御興町)
- ・森澤儀次郎氏(十三棟)
- ・中西 俊夫氏(下十二坊町)
- ・日下部 潔氏(南花ノ坊中)

○地域の安心安全ネットワーク形成特別表彰

・楽只あやじの会

市消防団定例表彰

- ・市長優良表彰
- ・笹川 誠信氏(上若草町)
- ・永年勤続表彰(十年)
- ・二ノ宮 健氏(南花ノ坊中)

京都市母子福祉センターの紹介

■一般相談

母子家庭や寡婦の子どもの養育、経済など日常生活の相談をしています。

■母子家庭等就業・自立支援センター事業

就業相談、母子自立支援プログラム事業、就業支援パソコン講座を行っています。

◎沙羅の会

今年度より新たな活動の場として若年寡婦部「沙羅の会」を創設しました。「伝統工芸体験と二条城」(梅のころ)、「京 四季の花を愛でる会」(3月)など色々な活動を予定しています。詳しくは事務局までお問い合わせください。

所在地: 〒606-0846 京都市左京区下鴨北野々神町26番地
北山ふれあいセンター 京都市母子福祉センター内
市バス北8「野々神町」すぐ、地下鉄「北山」徒歩5分
事務局: 10:00~18:00 休み: 毎週火曜・祝日・年末年始
TEL:075-708-7751 FAX:075-708-7833

民生主任児童委員による

「赤ちゃん誕生

お祝い訪問事業」



が始まりました

今年十月より、主任児童委員による「赤ちゃん誕生お祝い訪問事業」が、北区役所(福祉部・保健部)の協力を得て始まりしました。

生後四ヶ月までの乳児のお宅を保健師さんや助産師さんが訪問する「こにちは赤ちゃん事業」の際に、「赤ちゃん誕生お祝い訪問事業」を紹介してもらいます。

その後、楽只学区の主任児童委員に「赤ちゃん誕生お祝い訪問」をご希望されるご家庭からご連絡をいただくと、訪問いたします。

赤ちゃん誕生のハッピーメッセージカードとあわせて、子育てに関する相談機関や地域の子育て情報などをお知らせ

します。また、ご希望に応じてお困りごとや子育ての相談もいたします。育児の孤立感や不安感を解消し、赤ちゃんが健やかに成長できるように、家庭と地域の絆を強め、子育て家庭を応援いたします。ご相談の秘密は守られますので、お気軽にご相談下さい。

- お知らせください -

学区内で「赤ちゃんが誕生」されましたらお知らせください。子育て支援の情報紙と、可愛いプレゼントを持って伺います。

楽只民生主任児童委員

直本 愛子(491-9018) 村上 幸子(451-6754)

編集後記

本号も各種団体のご協力を賜り、おかげさまで無事発行することができました。ありがとうございました。

「今年の漢字」に象徴されるように、今年は「絆」の大切さを改めて見つめ直す年となりました。家族や仲間、地域の活動、ボランティアなど、今後も人と人のつながりを大切に、また感謝して日々過ごせればと思います。